

ニホンジカガイドラインの概要・ポイント

講師：一般財団法人自然環境研究センター 中田靖彦

ニホンジカの保護管理に関する講義では、シカの現状把握から特定計画の目的と目標設定、目標達成のための施策、フィードバック管理までの流れについて解説します。ニホンジカの分布は1978年以降、特に東北や中国地方の日本海側で拡大しており、全国的には個体数が高水準で推移していますが、2014年度をピークに減少傲慢が続いています。地域によっては増加傾向にあることも確認されています。

森林被害に関しては、全国的に減少傾向にありますが、地域によっては増加している場所もあります。森林生態系被害は、林野庁の森林生態系基礎調査（第4期）結果から被害地点数が増加していることが示されています。ニホンジカの状況は地域によって多様であり、長年対策が進んでいる地域では被害の減少が見られる一方、分布が拡大している地域では被害や生息数が増加しています。

保護管理の目的は、ニホンジカによる農林業被害や生態系への影響を軽減することであり、具体的な目標設定には指標や数値目標が用いられます。例えば、徳島県では下層植生衰退度を3未満にすることや、大阪府では農業被害強度を「大きい」または「深刻」である地域をなくすことが目標とされています。

目標達成のための施策には、個体群管理、被害防除対策、生息環境管理が含まれます。個体群管理では、捕獲数や生息密度などから、必要な捕獲数を算出します。被害防除対策では、農業被害に対して集落単位での検討が行われ、生息環境管理では、市街地や農地への出没を抑制するための緩衝帯設定や進入経路の遮断が行われます。

フィードバック管理では、施策の実行とモニタリングによる評価、改善のプロセスを順応的に行い、目標の見直しも含まれます。地域によって多様化するニホンジカの状況を踏まえ、地域特有の事情を考慮した計画作成と目的に合致した施策の実行が求められています。